



6月5日 庫裏新居工事地鎮式



第 143 号
(令和 6 . 7 . 1)
信 楽 寺

〒690-0052
松江市 堅町 88
TEL (0852) 21-1589
FAX (0852) 21-1590
郵便振替口座番号
01450-3-13538
山陰合同銀行 本店営業部
普通預金 No. 3147251
宗教法人 信楽寺
代表役員 内田広平

2024年(令和6年)は浄土宗開宗850年の年です



HP



インスタグラム



LINE



ぼんせがきほうよう 盆施餓鬼法要 ご案内

令和6年8月4日(日) 午前10時より

今年初盆を迎える仏様を皆さんでご回向しましょう。
ご自身のご先祖様を供養する為にも是非お参り下さい。

10時00分～11時00分 法要
11時00分～11時20分 挨拶

終了・解散

- ※お袈裟・お数珠をお持ちの方は携帯下さい。
- ※服装は普段着で結構です。
- ※初盆のご家庭は是非お参り下さい。
- ※初盆のご家庭に限り、何人でものお参りかお知らせ下さい。
- ※同封封筒にてご回向申し込み下さい。
- ※昨年同様にコロナ対策をしてお待ちしております。
- ※マスクについては各自の判断に委ねたいと思います。

お盆前 信楽寺墓地 一斉清掃 松尾町墓地

7月28日(日) 午前6時 信楽寺本堂にておつとめ
午前6時半より清掃

- ※冷たい牛乳を用意しております。
- 墓地をきれいにしてお先祖様をお迎えしましょう。
- 掃除道具をご用意下さい。
- 暑い中ですが宜しくお願いします。

お盆のおつとめ(棚経)について七頁下段をご覧ください

名前の重み

く初孫の誕生に思いを馳せてく



どなたのお名前にも名付けた人のいろいろな思い、願いが込められています。

私のお坊さんとしての正式名称は浄蓮社楽誉信阿(じょうれんじやぎきょうよしんあ)となります。生前戒名として、修行を終えた時点で名付けました。浄土宗の僧侶として立派に信楽寺を護つていきたい。単純ではありますが若い修行を終えた純粹な願いを込めました。私の名前に楽誉と付けているのはその意味です。

初孫はようやく六ヶ月を迎えました。首が座り、寝返りにも挑戦しつつあります。小さくしながら我(が)が備わり、人の顔色を見たり、多彩な表情を見せてくれるのが今の最大の楽しみであり、癒しでもあります。

その初孫に副住職は龍悟(りゅうご)と名前を付けました。辰年生まれであり、男の子としてたくましく、元気に育つて欲しいとの願いを込めて

の命名とします。

最近では男の子は男の子らしくとか、女の子は女の子らしくとは、大きな声では言い難く、はばかりれる時代ではありますが、親が子に付ける名前にはそれぞれの願いがあることは必要不可欠な物ではないかと思えます。

阿弥陀仏様は仏に成る前は法蔵菩薩(ほうぞう菩薩)といわれる菩薩様でした。その法蔵菩薩は総ての人々を救いたいという願いをお建てになられて、48のお誓いをされました。そして、その48のお誓いをすべて成し遂げられた(成就なさった)結果として阿弥陀仏様に成られるのであります。その中でも18番目のお約束事が念仏往生の願と言われものであり、我が名である南無阿弥陀仏のお念仏をお唱えする人を、誰一人として漏らすこと無く、私(阿弥陀仏)が構える西方極楽の世界へ救い取りますとのお約束をお建てになられたのです。

南無阿弥陀仏とは阿弥陀仏様の名前を呼んで頂くことなのです。

誰にでもすぐに出来て、特別な物を準備する必要がない、その南無阿弥陀仏のお念仏を西方極楽に往生(生まれ)する為のお約束事にして下さったのには、ただただ感謝に耐えられません。

名前にはそれぞれの思い・願いが込められています。私は南無阿弥陀仏とお念仏をお唱えする時、阿弥陀仏様の総ての人々を救いたいと興されたその願いが、このお名前の中に込められていることに歳を重ねるごとに有り難く感じさせてもらっています。

法然上人が一枚起請文の中に書き残し下さいました「智者のふるまいをせずして、ただ一向に念仏すべし」理屈で分かったからお念仏をお唱え出来るものではなく、迷いながらも、疑いながらも結構です。から、先ずは口に出してお念仏をお唱えしましょう。と薦められる法然上人のお言葉通り阿弥陀仏様に報恩感謝しな

がら、お念仏を日々お唱えして参りましょう。

3月19日龍悟くんの初参りを行いました。本堂が安心するののか、式中は寝ておりました。



写真で振り返る令和6年前半行事



3月20日春彼岸法要を行いました。
お勤めの後は沢悠佳さんによる民謡を楽しみました。



4月7日墓地清掃を行いました。
桜の木の下で集合写真を撮りました。



庫裏新居工事は順調に進み、基礎工事の最中です。
今年中には完成予定です。しばらくご迷惑お掛けします。

祖父の手記より

高木 秀人



父が今年の1月10日に満87歳で亡くなりました。多趣味な人間でお茶・謡・ゴルフ・卓球・家庭菜園などを楽しんでおりました。母が早くに亡くなったので寂しい気持ちもあつたかもしれませんが、10人の孫と3人の曾孫の成長を楽しみながら老後を過ごしておりました。父の四十九日の法事の折にこの原稿依頼を受け写真などを探しておりましたら祖父（高木清）の手記を見つけたので



2月24日満中陰の法事にて

それを元に家業の変遷をご紹介します。

江戸時代は寺社奉行をしてきたようですが、廃藩置県で没落し、祖父が生まれた時には現在タカキ楽器店の在る場所（松江市寺町）で「富士見亭」という小規模な駅前旅館を営んでおりました。（2階から東を見ると松江駅横にある荒神様の立派な松越しに大山が富士山のように見えたのが由来）

祖父は尋常高等小学校卒業後料亭へ料理修行に出ましたが、1年余りで身体を壊し自宅に帰り半年ほど家業を手伝っておりました。当時（昭和5年ごろ）はカフェー全盛期でダンスやビリヤードなど欧米文化が盛んな時代だったそうです。そこで今後は洋食が盛んになると思い県教育会館食堂へ見習いとして2年ほど通いました。幸いなことに都会のホテルからきたチーフに手ほどきを受け本格的な西洋料理を習うことができました。

西洋音楽が一番の楽しみだった祖父は、最初はバイオリンを

独学で始め、後にはマンドリンも始めました。松江マンドリンクラブ（後の松江プレクトラムソサイエティー）の団員として活動し、あちこちのステージやラジオでの演奏など楽しんでおりましたが、世の中はだんだんと戦時体制化し、軍国主義に移行していききました。音楽も国民の士気を高める意味から国民歌謡が出来て、吹奏楽団、出征兵士を送るためのブラスバンドと移行し、そこで指導など行つたようです。

昭和19年、赤紙招集で小倉第一陸軍病院へ入隊し終戦で帰郷しました。

戦後復興の中、店の北側は運河でしたが5年の月日を掛けて埋め立てられて道路になり、新大橋も新しく架け替えられて南北の幹線道路となりました。自動車も増え騒音が夜中まで続く様になり旅館として成り立たないのではないかと考えていた折、昭和24年の年末に旅館の客が夫婦心中するという事件がありました。この件で旅館業に嫌気がさした祖父は廃業を決意しました。昭和28年当時としてはモダンなレストランを建て、驚くほどの繁盛が続いたと同時に片手

間でやっていた楽器店も軌道に乗ってききました。

昭和56年、胃がんの手術を機に引退をすることにしました。その頃には松江も変わってきました。喫茶店や食堂も増え、また世の中も車社会となりました。駐車場の確保も出来ない現在の場所ではレストランは難しいと考え廃業し楽器店に専念することとし、飲食関連の各種役職も引退しました。

その後は、写経や絵画、釣り、家庭菜園、大工仕事、旅行などしながら閑居の生活を送りました。（高木清手記より。会社創業23年、現組織への変更昭和27年。）



昭和30年代

法然上人浄土宗 開宗八五〇年によせて

京都市在住 小倉 勇



私事で僭越ながらこの度、亡き母の十三回忌法要に際し、信楽寺山門に幕一張を寄進致しました。

昨年の年頭より「今年は亡母十三回忌である」との想いが何時も頭から離れず、どの様に法事をしたら良いものかと考えていました。

祥月命日が近づいたある日、知恩院での月例会(瑞雲会)「知恩院の墓地にお墓を持っておられる方々の集まり」を終えての帰り路、境内の阿弥陀堂辺りを歩いていたら、突然「法然上人開宗八五〇年」の音が身体の中を貫き、それまで思い悩ん



山門幕と小倉氏本人

でいたことが、一瞬にして霧散した様な心地になりました。帰宅後直ぐにこの体験をご住職にお話し、来たる当日の法要のお願いと、予め以前より相談をしてきた山門幕を寄進したい旨をお伝えし快諾頂きました。

その後ご住職と幕について、地色、紋章、配置、等々を話し合いを重ね、まとまりましたのが、年の暮れでした。

明けて仕事始めの日に発注して七〇余日「できあがりしました」との連絡を頂き直ぐに信楽寺様に連絡し、三月二十五日に登山し無事奉納することが出来ました。

早速本堂に於いて、法然上人浄土宗開宗八五〇年慶讃法要と山門幕奉納の報告をし、喜びをご住職と分かち合いました。勤行後お茶を頂きながら幕の出来上がりが法然上人の記された「一枚起請文」の二十三日、又奉納がご上人ご往生された二十五日と重なり奇縁を喜びました。

浄土宗開宗八五〇年のこの年に山門の幕が奉納出来たことのご縁を喜び、また、信楽寺様に於かれましては、お檀家、ご縁のある方々が開宗八五〇

と記された山門幕をくぐり法然上人への想いを偲んでいただければ望外の喜びです。

末筆となりますが、本年の「法然上人開宗八五〇年慶讃法要」を皆さまと共に祝したいと思います。

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

合掌

住職より

小倉氏は京都の古い町で着物、反物を扱う仕事をしておられました。今回幕を寄進したいとの申出に、私の希望する色、デザインを話し合いながら完成をみました。

当初は色が山吹色の幕は馴染みがない色で、小倉氏の勧めでなければ作らない冒険でした。

ところが実際に門に張ってみると意外や意外、固定観念を崩された色合いに驚きました。

京都の大学生時に、小倉氏のお父様のご逝去され、私にとり忘れられる事が出来ない経験、初めての枕経をさせていただきました。

また、そのお父様は先代が戦争に出征する時、「死んで命を無駄にするんじゃないぞ、必ず生きて帰ってこいよ」と言って見送ってくれた。と先代から直接聞いたお話を聞くに及んで、多くのご縁による今回の山門幕のご寄進であったことに、有り難く深く感謝申し上げる次第です。

本頁の小倉勇氏のお兄様である小倉紀雄氏より川柳の投稿です。

令和6年1月

- ・お正月震度七は悲惨なり
- ・列島をねじれてゆるがす大地震

2月

- ・国会は民を見ず金を見る
- ・裏金よ表にでもヤミの金
- ・神代からお金は魔もの身をくずす
- ・逆立ちの着地最高月探査

3月

- ・咲く花に生きる望みをお知らせられ
- ・雑草も花咲く命引き抜けず
- ・側溝の水の流れも春の音

4月

- ・満開の花見の客も国際化
- ・人びとの心いやして桜散る

5月

- ・五月晴れ私の日課草むしり
- ・鯉およぐ五月の風は緑色
- ・春うらら水面にかぶ家の影
- ・さざなみにゆれる植田の葉先かな

老夫婦生活

- ・老夫婦いたわり合ってもめている
- ・食細り量より質の我が家食
- ・湧きました妻より優しい風呂の声
- ・前向きの句を詠みたくて指を折る

一日一生今を生きる

- ・免許返納未練が断ち切れぬ
- ・立上がり目的忘れまた戻る
- ・最近忘れられるよりも覚えぬ
- ・今今茲に有ったはずが探す老い
- ・雑談が弾んで用事置き忘れ
- ・物忘れ探すものまで忘れてる
- ・悩みごとなくなった時認知症

小倉俊城

令和5年度 信楽寺維持費会計

(自 令和5年4月1日～至 令和6年3月31日)

収入の部

単位 (円)

	令和5年度予算	令和5年度決算	令和6年度予算	備 考
維持費収入	3,200,000	3,293,000	3,280,000	
繰越金	320,711	320,711	208,359	
合 計	3,520,711	3,613,711	3,488,359	

支出の部

単位 (円)

	令和5年度予算	令和5年度決算	令和6年度予算	備 考
課金(宗費他)	550,000	581,400	600,000	浄土宗宗費・組費など
法要行事費	450,000	525,444	540,000	盆施餓鬼・十夜法要・春秋彼岸法要
教化布教費	140,000	87,506	90,000	書籍購入費・浄土宗新聞代
会議費	120,000	50,640	60,000	総代会・世話人会
つきかげ印刷代	220,000	213,400	220,000	年2回印刷代
租税公課	120,000	113,600	120,000	固定資産税
火災保険	300,000	355,980	360,000	本堂・庫裡・山門・聖徳太子堂・消防設備点検
庶務費	340,000	316,597	320,000	コピー機、AEDのリース料
通信費	400,000	368,073	370,000	つきかげ発送代
助成費	50,000	30,000	30,000	詠唱会へ
税理士報酬代	160,000	156,832	160,000	
水道光熱費	250,000	250,000	250,000	
雑費	420,000	355,880	360,000	松、樹木剪定代、盆前・年末大掃除お手伝い賄費他
予備費	711	0	8,359	
合 計	3,520,711	3,405,352	3,488,359	

3,613,711 - 3,405,352 = 208,359 (次年度繰越)

会計監査 令和6年6月10日

決算書類を監査し適正に処理されていることを認めます。

森田 豊 印

吉岡 利夫 印

※悪用防止のため、認印を省略しています。

令和6年度年会費納入のお願い

令和6年度年会費未納のお宅は早めに納入頂きますようお願い申し上げます。



令和5年度寄付金総額 一金 280,000円

年回法事の寄付として頂いた総額です。

この寄付金は次の様に使わせて頂きました。

・デジタルカメラ購入・位牌堂位牌落下防止柵工事

令和6年 行事報告・後半行事予定

中止

行 事	期 日	時 間	場 所	備 考
しゅうしやうえ 修正会(初参り)	お正月三ヶ日本堂正面を開けて 自由にお参りいただきました。	元旦午前10時より	当山本堂	寺族(お寺の家族)でお正月のお勤めをいたしました。
しんねんかい 新年会	中止		当山本堂	
ねんげんかい 涅槃会	2月中		当山本堂	2月15日はお釈迦様のご入滅なさいました涅槃の日です。本堂に涅槃図をおまつりしました。
れいわ6ねんはじめての 早朝墓地清掃	3月17日(日)	午前7時からおつとめ 午前7時半から清掃	当山本堂	まだ寒い時期でしたが、今年最初めの墓地清掃をいたしました。
はるのほとり 春彼岸法要	3月20日(水) 春分の日	午後1時半より	当山本堂	皆さんと一緒に念仏をお称えして、春彼岸のお勤めをしました。おつとめの後、沢悠佳(たくゆか)さんによる三味線・歌・踊りの民謡の素晴らしい演奏に、皆さん楽しんでいただきました。 
はなまつり法要 (松江仏教会主催)	4月3日(水) 友引	午後1時より	島根県民会館 中ホール	今年の松江仏教会主催、花まつりの法要は、浄土宗・時宗が担当でした。当日は生憎の雨でしたが、思った以上にご参加がありました。おつとめの後【Paix2(ペベ)】による講演コンサートは、賑やかに楽しい時間を過ごしてもらいました。 
ちゅうごくちく 中四国地区 布教師研修会	6月21日(金) 友引	午前9時半より	当山本堂	中四国地区浄土宗のお坊さんによる布教師の研修会でした。他地区より来られて布教をしていただきました。お檀家さんの数は少なかったですが、お話をするお坊さんにとって、お檀家さんの存在が心強く、有り難く思われたに違いありません。
せいとくたいし 聖徳太子祭り	7月22日(月) ～23日(火)		聖徳太子堂	両日とも午後5時よりおつとめをいたします。修繕された聖徳太子堂に是非お参りください。夜には十七条憲法写経用紙で参道を明るく照らします。
かみど 墓地一斉清掃	7月28日(日)	午前6時おつとめ 午前6時半墓地清掃	信楽寺墓地 松尾町墓地	お盆前の一斉清掃です。綺麗な墓地にご先祖様をお迎えしましょう。
かき 棚 経	8月1日(木) ～15日(木)			皆さんのお宅にお参り致します。お参りの順番を同封してありますのでご確認ください。
おほしほ 大橋川灯籠流し (松江仏教会主催)	8月16日(金)	午後7時より	宍道湖湖畔	お盆に還って来られたご先祖様を極楽の世界にお送りする為の灯籠流しです。
ぼんしやく 盆施餓鬼法要	8月4日(日)	午前10時	当山本堂	初盆を迎える仏様を皆さんでご回向致します。
ちく 地藏盆おつとめ	8月23日(金) 24日(土)		堅町灘側 地藏尊	
あきほとり 秋彼岸供養・ 永代供養法要	9月22日(日)	午後1時半	当山本堂	おつとめの後の予定は計画中です。
いづも 出雲教区 檀信徒大会	10月1日(火)	12:00より受付 13:00より開会	島根県民会館 中ホール	今年には松江が担当となります。浄土宗開宗(宗祖法然上人が43歳の時に浄土宗をお開きになられてから)850年を迎えるに当たり、薩摩琵琶奏者【北原香菜子】様に法然上人御一代記を演奏予定です。 
おとつぎ おつとぎ信行奉仕団 (本山参拝)	10月28日(月) 29日(火)	朝5時30分 松江駅南口出発	総本山 知恩院	知恩院に泊まります。知恩院での奉仕作業後、京都国立博物館特別展「法然と極楽浄土」石山寺・大河ドラマ館を観光して帰ります。会費は33,000円です。どうぞご参加申込お待ちしております。案内を同封しております。
いづも 出雲教区詠唱大会	11月5日(火)	午後より	平田・極楽寺	年に1度の詠唱の大会です。現在人数は少ないのですが、いつでも新入会員を待ちしております。
じゅうや 十夜法要	11月10日(日)	午前9時半より受付 10時よりおつとめ	当山本堂	後日、塔婆の申込みを往復ハガキにて、直接ご案内致します。例年と日にちを変更しておりますのでご注意ください。
しんじゆ 今年最後の墓地清掃・ 浄 焚 会	12月1日(日)	午前7時	本堂正面	浄焚会とは、捨てるに捨てられず困っているお守り・お札・お仏壇の道具類の魂を抜いて供養するおつとめです。お気軽にご相談下さい。

* 基本的にどの行事にもお参り頂きたく思っております。どうぞご予定にお組み入れ下さい。

定例行事ご案内

* ご詠歌の練習 *



毎月第2・4土曜日
午後1時半より
随時新会員募集中



* 墓地清掃 *

毎月第1日曜日早朝

* 写経会・写仏会 *

毎月22日
午後1時半より
写仏も出来ます、字の綺麗さには
こだわりません。千円の参加費が
必要です、皆様お待ちしております。

いずれの会も随時参加・見学歓迎しております。詳しくは本堂前の看板にて月行事ご確認下さい。